

第3期下京区基本計画の各戦略に基づく主な取組

戦略1 人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり

地域コミュニティの活性化に向け、多様な担い手による主体的なまちづくりを促進・支援し、自治会・町内会をはじめとする地域団体と、事業者・NPO・行政等が連携して地域課題を解決できるまちをめざします。

リーディングプロジェクト

★地域の事業者や外部(NPO、大学等)の方が町内会活動に参加しやすいしくみづくり

○地域コミュニティ活性化支援施策

デジタルデバイドの解消や地域コミュニティ活性化に向け、ソフトバンク認定講師によるスマートフォン教室の開催や、区長Meet upでのICTツール、出張スマホ教室を紹介。町内会活動へのICTツールの導入を提案した。

★まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」による社会・地域課題解決の推進

令和7年度は、区基本計画の重点戦略に該当する活動26件採択(一般枠20件、地域まちづくり特別枠6件)。子育て支援、防災、地域コミュニティの活性化など、幅広い分野の活動を支援。



推進施策

①まちづくりを担う人づくり

○植柳自治連合会の取組

「世代を超えた集いの場の創生」をテーマに多世代の方々が楽しめる内容へと発想転換したイベントを開催。

地域住民の特技を活かした敬老会の開催や、夏祭りを『秋の夜の集い』に変更し、デュシタニ京都と連携するなど新しさを組み込むことで、子どもから高齢者まで、幅広い世代の方々が楽しめるイベントを実施。多くの方が参加し、地域住人同士の絆を深めるとともに地域への参画意識の向上に取り組んだ。



○「暮らしたい下京」等の運営

地域に関わる情報、子育てに関する情報など、様々な情報の発信に加え、下京区への移住を検討する方にも役立ち、定住の促進につながる情報を発信することを目的に、新たなウェブサイト「暮らしたい下京」を令和7年9月に開設。まち、ひと、暮らしにおいて様々な魅力あふれる下京の魅力を発信している。また、区SNS(X及びFacebook)を活用し、区内の情報、魅力等を広く発信した。

○学区と事業者等の連携による取組

- ・醒泉学区と京都デザイン&テクノロジー専門学校 eスポーツ体験会や「祭・ザ・seisen」での缶バッジづくりのブース出展
- ・有隣学区と明治安田生命保険相互会社京都支社
- ・修徳学区と明治安田生命保険相互会社京都支社 学区の夏祭りへの参画

②持続可能な地域コミュニティづくり

○区長Meet upの開催

9月に区役所と市協・自治連会長(26名参加)との懇談の場として開催。

「担い手不足の時代に、いちばん伝えるべき情報とは？」をテーマに新たな担い手を惹きつける地域活動の魅力や、情報を効果的に発信する手段について、講演及び意見交換を実施。

○格致花と緑の回廊づくり推進委員会の取組

京都市北総合支援学校中央分校の児童生徒・保護者の方々や、学校周辺住民の小さなお子さんから高齢者まで多世代の方々が一緒に協力し、各自の思いや創造力を持って一つの寄せ植えの作品を作る「みんなで寄せ植えづくり」のイベントを実施。学校周辺を中心とした地域のつながりを創出した。



推進施策

○格致ファミリークラブ(下京少年補導委員会 格致支部)の取組

学区内にある老舗和菓子店「亀屋良長」と連携し、近隣住民の親子、祖父母とお孫さんらがペアになって、一緒に楽しく和菓子づくりを体験できるイベントを実施。地域住民間の親睦及び多世代交流を図るとともに、和菓子づくりに興味を持った子どもたちが、一人でも未来の職人の担い手につながることを目指した。



○特定非営利活動法人京都コミュニティ放送の取組

学生の地域参画を目指して、区内の伝統文化や伝統産業などの情報発信をラジオで行う。

10月から3月まで放送中の「FM797 京都三条ラジオカフェ」の番組「京都下京 伝統のまち」では、大学生約20名がパーソナリティとなり、企業への取材を通して下京の魅力を伝えている。ラジオを通して学生と地域の交流促進を目指すとともに、下京区の地域・文化資源を地域に広く共有する。



○OHANAの取組

【地域】×【中小企業】×【みんな】をつなぐ架け橋として、「あらゆるボーダーを超えた出会いのきっかけの場所」となるイベントを10月に興正寺で開催。

マルシェを仕掛けとし、来場者と地域企業との交流の場が生まれることで、地域企業の周知を目指すとともに、就職活動中の方が地元での就職につながるきっかけの創出を目指す。



○下京区ふれあい事業

- ・グッジョブ！キッズフェスタin下京→戦略2で詳述
- ・人権月間事業→戦略3で詳述
- ・下京まちなかアート→戦略6で詳述

③社会・地域課題を解決するしくみづくり

○下京ローカルグッド 祭りプロジェクト

→交流促進・まちづくりアイデア創出プロジェクトで詳述

○京都中小企業家同友会下京三支部との連携協定の推進

- ・グッジョブ！キッズフェスタin下京に同支部が協力(3体験メニュー出展)→戦略2で詳述
- ・区及び同友会が、互いに報告・情報提供等を行う意見交換会を定期的開催
- ・同支部が主体となる清掃活動への協力→戦略4で詳述

戦略2 はぐくみ文化の創造・推進

地域や支援機関、企業等も含めた全ての関係者が子育ての楽しさ、素晴らしさをともに感じながら、地域ぐるみで子ども・若者・子育て家庭を大切にすることで、安心して子どもを生み育てられる環境づくりによる移住・定住促進、はぐくみ文化の創造・推進を図ります。

リーディングプロジェクト

★団体、企業等との連携により地域ぐるみで子育てを支援する「下京みらい数珠つなぎプロジェクト」の推進

「暮らしたい下京」を活用し、より幅広い対象者への情報提供を開始。

主任児童委員などが、妊婦や赤ちゃんが誕生した家庭を訪問する「下京赤ちゃんねっと事業」の周知を強化し、昨年より申込者数も増加。子育て家庭が地域とつながるきっかけづくりや、継続的な顔の見える関係につなげている。

また、妊娠期からの子育て支援の一環として、赤ちゃん人形等の貸出を開始。自宅で抱っこや沐浴等の練習ができ、安心して出産、育児に向けた準備ができるように支援を行っている。



★企業・職人等との連携による子ども・若者を対象とした職業体験や歴史講座等の実施

○グッジョブ！キッズフェスタin下京(ふれあい事業)

(京都中小企業家同友会下京三支部、京都デザイン&テクノロジー専門学校、区内事業者と連携)

小学生が、体験を通して「お仕事」や「伝統産業」を身近に感じ、楽しみながら下京区の魅力を知ることのできるイベントを11月に実施。体験メニューは8種類で約110名が参加。

- ・株式会社遠藤新兵衛商店：扇子作り体験
- ・河本印房：ハンコ作り体験
- ・きものステーション・京都：背守り刺しゅう体験
- ・京都中小企業家同友会下京三支部：インテリアデザイナー体験等
- ・京都デザイン&テクノロジー専門学校：プログラミング体験等



推進施策

①子どもと家庭をオール下京(区民、事業者、行政等)で育む環境づくり

○下京区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会の取組

「子ども・若者の今と未来のために大人として何ができるか」を共に考え、行動する市民ネットワーク。今年度は、テーマを「DISCOVER下京Ⅲ～人・まち・こと 再発見～」とし、下京青少年活動センターでのワークショップ(柳原銀行資料館と崇仁のまち「人権ゆかりのまちを歩く」)、京の食文化ミュージアム(「あじわい館」「中央卸売市場(青果、水産)を見学しよう」)、京エコロジーセンター(「子どもたちのエコな未来って? ~みんなで考えましょう~」)等を開催。



○まちなかでのスポーツを通じた子育て支援

京都市定住・移住応援団である「有限会社OVER THUMPZ」や「株式会社じげん」と連携し、『子育てに魅力のある下京区』を目指し、ダブルダッチや3人制バスケットボールの魅力を活かした、子育て世代に向けた体験型イベント「しもぎょうURBAN SPORTS CHALLENGE」を区内の児童館を対象に令和7年8月より毎月開催。累計200名以上が参加。

2月14日に開催した、区内の全小学生を対象とした体験記録イベント「しもチャレ2025ファイナル」には、約50名が参加。体験・記録会に加え、プロアスリートによるパフォーマンスやエキシビジョンマッチなど、家族で楽しめるイベントを実施した。



○街仲ふらっとサロン この取組

子育て世代の息抜きの場や、子どもたちの居場所を作ることを目的に、定期的にふらっと立ち寄れるサロンを5回開設。「刺繍ミシンでオリジナルワッペンを作ろう」や「和綴ノートを作ろう」など、各回でテーマを設定。お茶を飲みながらゆっくり相談したり、体験したり、つながりを持ったりすることで、子育て層の孤立解消につなげる。



○合同会社Shutchohoikuの取組

親子で地域の企業を訪問して「おしごと体験」ができるツアーを12月及び1月に開催。普段はなかなか入れない職場で、大人がどのように働いているかを見て・聞いて・体験することで、地域企業と子育て世帯の接点を生み、地域内でのつながり強化を目指すとともに、子どもの仕事への関心や将来の視野を広げる機会を創出した。



○オトナプロジェクト実行委員会の取組

京都・下京区への移住・定住を考える子育て世代に向けた、市内で子育て中&子育て世代を支える活動をしている講師らによるワークショップを開催。京都での子育てや暮らしをテーマに交流する場を創出することで、安心して子育てできる下京区の推進を目指す。



○明日も笑顔の取組

5月及び10月に四条大宮ロータリーにおいて、子どもたちが自由に遊べるイベントを実施。子ども支援団体や企業等が出展することで団体同士の横のつながりを創出するだけでなく、子どもや保護者と団体もつなげることで、地域全体で子どもを見守り、育てる機運の醸成を目指した。



○特定非営利活動法人コミュニティ・スペースsaculaの取組

区内の子ども・若者の居場所づくりを目指す団体の横のつながりづくりと、団体と区民とのつながりづくりを目指したイベント「下京つながるフェス」を11月及び3月に開催する。居場所を必要としている地域住民や子ども・若者に、複数の団体が協力し合い、包括的にサポートできる体制づくりを目指す。



②特に支援が必要な子ども・若者・家庭等への切れ目のない支援

○児童館、つどいの広場、子育てサロン

子育て支援ステーション会議(11月)や研修会(6月)を実施し、地域の子育て支援の拠点である児童館などの「基幹ステーション」や、子育て中の親子の身近な交流の場である「つどいの広場」を中心とした、子ども・若者世代が気軽に集い、情報交換できる場を運営する機関や団体との継続的な連携を実施。

また、関係機関のイベント情報などを下京はぐくみだより「たんぽぽ」に掲載し発行。子ども・若者の居場所や通える場の周知に努めている。

○子ども食堂DAYの開催

梅小路パークカフェ運営事業者を中心に、「子ども食堂」を広く知ってもらうことを目的に、関係企業等の協賛のもと10月に梅小路公園で開催。子ども食堂の関係者も参加し、ゲームコーナーや音楽演奏、子ども食堂に関するパネル展示やアンケートなどを実施した。

戦略3 誰もがいきいきとくらせるまちづくり

世代や分野を超えてさまざまな人や団体等が連携し、住み慣れた地域の中で誰もが「笑顔」で自分らしく、生きがいを持ち、健康に安心して暮らし続けることができるとともに、互いに違いを認め合い、支え合う地域社会、人権文化を構築すること等を通じて、都市のレジリエンス向上を図ります。

リーディングプロジェクト

★「フレイルと生活習慣病の予防」による「健康長寿のまち・下京」の推進

○健康まつり(下京区、南区合同実施)

「健康寿命をのばそう！～いきいき生活のコツ」をテーマに健康にちなんだ川柳を募集し、優秀作品を「すこやか大賞」として表彰。併せて健康講演会を同時実施。(10月)。



○地域における健康づくり事業

- ・七条社会福祉協議会と連携した「健康寿命をのばす『お口のケア』」に関する教室の開催(9月)
- ・シニアクラブと協働で「ヘルス&ビューティーセミナー」実施。フレイル予防に関する食生活について講話体操を紹介(10月)
- ・介護予防推進センターと協働で「65歳からの栄養改善教室」を開催(10月)
- ・介護予防推進センター、明治安田生命保険相互会社京都支社と協働で「骨粗しょう症予防対策プログラム」の健康教室を開催(10月)
- ・睡眠と休養の健康教室を開催(11月)



推進施策

①異文化や多様な生き方を認め合い、誰一人取り残さない支え合いのまちづくり

○「人権月間事業」開催(ふれあい事業)

12月の「人権月間」に合わせ、「共生社会の実現」をテーマに区民や事業者等を対象に、上映会&講演会を開催。約120名が参加。

【上映作品】

「新居浜ひかり物語 青いライオン」

【講演会】

テーマ:社会で共に生きることを考える

講演者:(一社)暮らしランプ 小林明弘氏



© 2024 RSK 山陽放送株式会社

○下京こころのふれあいネットワークの取組

(下京民生児童委員会、下京区地域女性連合会、下京保健協議会連合会、下京区シニアクラブ連合会、下京区社会福祉協議会、下京東部・西部医師会と連携)

こころの病や障害についての理解を深め、こころの健康への市民の関心を高めるとともに、地域で生活するこころの病がある市民の方への支援活動を行うための地域組織(ネットワーク)を運営。

「精神障害者、発達障害者の理解とコミュニケーション」(11月)、「こころの病、知ることから始めよう～地域で支えあうこと～」(1月)などの講演会を開催。また、区役所で作品展示を実施。「下京まちなかアート」の一環として、3月にはホテルエミオン京都で作品を展示予定。



推進施策

①異文化や多様な生き方を認め合い、誰一人取り残さない支え合いのまちづくり

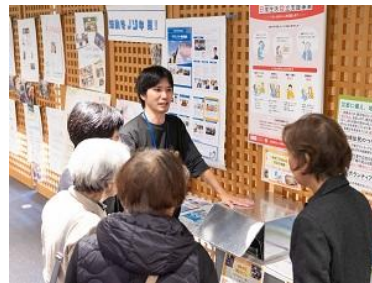
○特定非営利活動法人クリエイター育成協会の取組

企業で働く障がいのある方とその雇用に取り組む企業を取材し、障がい者就労をテーマにしたフリーペーパーを発行。「働くことで自立できる」というポジティブなメッセージを発信し、障がいのある方の就労に関する社会的な不安や偏見を払拭することで、障がいのある方の「はたらく」に対する理解促進と、地域における雇用創出のきっかけづくりを目指す。



○下京区社会福祉協議会の取組

下京区の地域福祉活動を広く区民に周知することを目的に、地域の福祉活動を紹介する「下京区地域福祉活動EXPO2025」を12月に開催。「パネル展示」、「体験コーナー」、「活動者のリレートーク」などを通して、多くの方に関心を持っていただくイベントを実施した。



○みんなが気持ちよく暮らすための下京区生活ガイド(仮)(多言語チラシ)の作成

外国籍の市民の方等に向けた生活マナーやルールをお知らせするチラシ(日本語、英語、中国語、韓国語)を作成。下京区にお住まいの誰もが、安心して生活できる環境整備を目指す。

○株式会社アグティの取組

梅小路ACWAを拠点に、「コミュニティナース」について地域の方に知っていただく機会を創出。地域の中での関係性を紡ぎなおし、皆の顔が見える、皆で支え合える地域コミュニティづくりを目指し、5月及び1月にコミュニティナーストークイベントを開催した。



○国際的非暴力展実行委員会の取組

京都市立芸術大学ギャラリーにおいて、国内外のアーティスト・作家から参加を募り、非暴力をテーマにした展覧会を7月に開催。83名の作家が参加し、作品展示を通して地域住民や来場者に多文化共生や暴力について再認識する場を提供することで、鑑賞者やアーティスト同士の対話の創出を目指した。



○Safe Space ほっこの取組

音楽、アート、対話、自己表現といった多様なアプローチを通じて、孤立防止・自己肯定感の回復を目的とした場(安全基地)を提供するため様々なイベントを実施。参加者が安心して自分を表現できる場の提供を創出した。



推進施策

○株式会社マナーコンシェルズの取組

障害を持ちながらも多様な才能を持つ方々と区内の企業や店舗の橋渡し役を担うことで、人手不足の解消や、差別や偏見を無くし、街全体で障害のある方への理解に向けた行動の活性化を目指すため、8月に【誰もが輝ける未来へ・ユニバーサルランウェイ2025】を京都リサーチパークで開催。約200名が来場。



②人生100年時代を見据えた健康で心豊かに過ごせ、活躍できるまちづくり

○食育セミナーの開催、食育指導員への活動支援

○お口からはじめる生活習慣病予防教室の実施

「京都市健康長寿・口腔保健・食育推進プラン」に基づいた栄養、食生活に関する適切な知識及び実践の普及啓発を実施。今年度は食育セミナーを9回開催。また、「骨粗しょう症予防対策プログラム」の健康教室において、栄養と歯科の講話を10月及び1月に開催。

○各種スポーツ大会の実施

住民の健康増進、体力の向上、地域コミュニティの活性化に向けて、下京区体育振興会連合会が地域において各種スポーツ大会を実施。

- ・下京区民グラウンドゴルフ大会(R7.5.18/33チーム(約130名))
- ・第71回下京区民ソフトボール大会(R7.6.1/3チーム(約50名))
- ・第57回下京区民壮年ソフトボール大会(R7.6.1/4チーム(約60名))
- ・下京区民ソフトボールフェスティバル(R7.6.8/7チーム(約100名))
- ・チャンピオン大会(女子バレーボール)下京区予選(R7.7.6/8チーム(約80名))
- ・下京区民ニュースポーツ体験会(モルック、ボッチャ)(R7.10.26/11チーム(約60名))
- ・第74回下京区民卓球大会(R7.11.30/12チーム(約80名))



戦略4 環境と調和したくらしが根付く持続可能なまちづくり

2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」の目標達成に向け、ごみの出ない循環型のライフスタイル・ビジネスモデル・地域社会への転換、環境問題を解決するイノベーションの促進、生物多様性の保全を学ぶ機会の創出や環境に配慮した実践活動の担い手育成等を通じて、持続可能な循環型社会の実現をめざします。

リーディングプロジェクト

★地産地消や自然・生物との共生の大切さ、地球温暖化対策、 ごみ減量等について学ぶ機会の創出、環境保全の担い手づくり

○「ベアーズウッド」で椅子を作ろう 京都の木を使って地元の山や木のことを学ぶワークショップの開催

京都市の市民生活に深く関係する森林の公益的機能をはじめ、それを支える林業・木材産業の役割(資源の循環利用)への市民理解を深めることを通じて、生活に木を取り入れる、身近なものを木に変える「ウッドチェンジ」など、森林の保全につながるワークショップを3月に開催予定。市民の主体的な行動につなげることを目的に、森林環境教育等に資する事業を実施する。

※ 京都府豊かな森を育てる府民税活用事業



○一般社団法人 DESIGN KYOTOの取組

都市の中にもありながら多様な生き物が息づく梅小路公園で「まちなか自然ラボ」事業を展開。

11月の循環フェスに出展し、琵琶湖のヨシやマコモの端材を活用したオーナメントづくりのワークショップを開催。梅小路公園をフィールドに、自然に触れて学び、自然素材と循環の大切さを伝え、自然を身近に感じる機会を提供した。

親子を中心とした近隣住民が主体的に企画・運営することで、公共空間を主体的にケアする必要があるという本来の公共への意識醸成を目指した。



推進施策

①徹底した省エネやごみ減量、脱炭素社会に向けた取組の推進や門掃き、打ち水など、京のまちに息づく生活習慣の継続

○エコ学区サポートセンターの取組

下京区はぐくみネットワーク実行委員会の方々に対し、「2050年CO2ゼロ『どこでもトーク』」の一環として、「子どもたちのエコ活動って？みんなで考えましょう！」を開催。

○東本願寺前マルシェにおけるリユース食器の導入

下京区ふれあい事業実行委員会及び下京区役所が共催する「東本願寺前マルシェ」(2月及び3月予定)において、同マルシェに出店のキッチンカーにリユース食器を導入し、ごみの減量を行うことで環境に配慮したイベントとして開催するとともに、会場にリユース食器及びごみ分別回収拠点を設け、ごみ減量や分別など、マルシェ参加者の環境意識の醸成を目指す。

○資源物回収の取組

下京エコまちステーションや地域の集団回収、商業施設などで、16品目の資源物の回収を進める。

- ・使用済てんぷら油(区役所含む)35拠点
- ・乾電池(区役所含む)4拠点
- ・蛍光管18拠点
- ・コミュニティ回収事業161団体
- ・移動式拠点回収(有害)10回開催
- ・移動式拠点回収(まちかど)82回開催



○京都中小企業家同友会下京地域会で実施する清掃活動

地域貢献を目的に10月に第1回の清掃活動を実施。以降、定期的に活動している。

※ その他、「梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会」なども、定期的な清掃活動を実施している。



戦略5 危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり

区民・事業者・行政等の一層の連携強化、一人一人の防災や減災に対する意識の啓発等による「地域防災力」の向上に取り組み、災害に強いまちづくりを推進します。また、防犯・防火活動、交通安全対策を継続して実施し、子どもや高齢者をはじめ、誰もが安心安全にらせるまちづくりを推進します。

リーディングプロジェクト

★工夫を凝らした防災啓発の推進(楽しみながら学べる防災訓練プログラム(体験型防災ゲーム)、防災・福祉まち歩き会、減災カフェ、避難所運営ゲームなど)

○醒泉まちづくり委員会の取組

防災まちづくり活動を通じて、自治会に加入している住民だけでなく、全住民の防災意識の向上を目指し、マンション住民との顔の見える関係づくりとなる「マンション防災」等に取り組む。防災まちあるき、減災カフェ「段ボール窯でpizza作り」等を実施し、学区民同士のつながりを深め、子育て世帯、マンション住民の参加を増やすことで、地域の次世代の担い手発掘を目指す。



○菊浜まちづくり推進委員会の取組

菊浜学区の住民を対象とした福祉・防災まちづくり訓練(避難所運営資器材の使用訓練・体験)を実施。



○光徳自治連合会の取組

「かまどベンチ」を活用し、10月には子ども向けに火起こし・カレー作りを体験する光徳デイキャンプ、2月には炊き出し訓練を実施。「子ども・子育て世代」と「地域」の交流を深め、地域全体の防災意識の向上を目指す。



推進施策

①レジリエントな地域づくりに向けたオール下京(区民、事業者、行政等)で取り組む地域防災力の向上

○下京区総合防災訓練・学区防災訓練の実施

下京ジュニア消防団や区内にお住いの子どもたちを対象に、新聞紙でお米を炊く「魔法のかまどごはん」による炊出し体験、誰もが楽しめるパラスポーツ「ポッチャ」と「防災」を組み合わせした「学防ツチャ」、避難所資器材の組立体験やGoogleフォームを活用した避難状況の把握等学区独自の防災に関する取組紹介など、全17事業者と地域の協力のもと、日頃の備えについて考える「下京区防災フェア」を12月に開催。



○民間事業者の地域イベント(防災)への参加促進

地域開催の防災訓練等へ事業者が参加し、共に訓練を行い、顔の見える関係を作り、また、地域に向けた防災学習を行うことで、地域の防災力向上を目指す。

- ・醒泉学区イベントにおいて、損保ジャパン株式会社が子ども向け体験型防災学習を実施
- ・七条学区防災訓練において、京都南病院が応急手当指導を実施
- ・醒泉学区及び有隣学区の防災訓練等に、防災連携協定を締結する宿泊施設事業者が参加



推進施策

②下京にくらす人、働く人、訪れる人、学ぶ人、誰もが安心・安全にくらせるまちづくりの推進

○安心安全ネット継続応援事業の推進

学区において実施される子ども見守り活動や防犯、防災対策等の取組に対し事業費の一部を補助する事業で、令和7年度は8学区(淳風、尚徳、稚松、安寧、梅逕、大内、光徳、七条)を支援。

○防犯啓発活動

警察、地域防犯推進委員、事業者と連携し、子どもからお年寄りを対象に幅広く防犯啓発を行う。
警察と連携した高齢者向け防犯セミナーや、京都駅やスーパー等で、区内事業者、防犯推進委員とも連携した特殊詐欺防止等防犯啓発を実施。3月には防犯講演会を開催予定。



○青色防犯パトロールの実施

(地域、下京警察署、区役所で連携)

- ・偶数月に警察、地域と共に青色防犯パトロールを実施。
- ・毎月14日に下京区役所単独で青色防犯パトロールを行い、合わせて京都タワーのライトアップ及び京都駅自由通路、烏丸通地下通路で啓発画像を掲出。
- ・12月に、下京警察署にて青色防犯パトロール出発式を実施。



○各季全国交通安全・交通事故防止運動行事の開催

(下京区交通対策協議会、下京警察署、区役所で連携)

官民一体となり、各季全国安全運動期間等に啓発イベントの開催や、市域一斉啓発活動日に街頭啓発活動などを実施。

- ・各季全国交通安全・交通事故防止運動行事・啓発活動 4回開催
(梅小路公園、植柳コミュニティセンター、京都河原町ガーデン等)
- ・下京警察署、交対協と区内小学校等との共催による交通安全推進の普及啓発

戦略6 京都の元気をけん引するまちづくり

起業家やクリエイティブな人々・企業を呼び込み、文化と経済の融合、異分野との交流によるイノベーションの創出、スタートアップ・エコシステムの形成を加速させるとともに、地域文化の継承・発展につながる観光推進等により、持続可能な地域経済の好循環を生み出し、京都の活力をけん引する創造的なまちづくりを進めます。

リーディングプロジェクト

★伝統産業職人と芸術系大学生の連携・コラボレーション ②京都芸大移転を生かした芸術活動と地域・生活文化の融合

○一般社団法人文化資産デザイン研究推進機構

京都市立芸術大学生が中心となり、京町家田中家（七条高倉）にてワークショップと演奏会を開催。8月は、「岩絵具を使った日本画制作、漆の墨流しのワークショップ」、9月には同大学の美術学部と音楽学部の学生3組の演奏者による「京町家の音楽祭」を実施。地域住民や小中学生が参加し、学生と交流する場とすることで、地域と大学をつなぐことを目指した。



○崇仁まちづくり推進委員会

土を耕し、野菜を作り、人と人との関係を耕し、ひいては崇仁の新しいまちづくりの力となる“人を耕す”というコンセプトのもと、京都市立芸術大学生と地域との連携を促進し、地域住民が文化芸術に親しむ機会を創出。9月は子どもたちと陶器皿、漆のスプーンを製作、12月は、同大学学長制作の大型可動プランターで育てた野菜を使ったカレー作りのワークショップを開催した。



○下京まちなかアート(ふれあい事業)

3月1日～23日、まちなかの様々なスポットを訪れながら、アート作品や演奏など身近に芸術に触れられるイベントを実施。「京都市立芸術大学音楽学部在学学生によるフルーツ四重奏」や「手づくりマルシェ「東本願寺マルシェ」～ものづくりRyokuchi～」など事業者等と連携し、イベントを実施。文化芸術を基軸としたまちづくりの推進を目指す。



推進施策

推進施策

③地域と調和した京都駅、梅小路周辺のさらなるにぎわい創出と回遊性向上

○「Umekoji Xmas Candle 2025」の開催

(主催:梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会、株式会社ビバ、有限会社中村ローソク 共催:ホテルエミオン 京都)

梅小路公園周辺の施設や企業・団体と連携し、地域コミュニティのつながりを深めることを目的に、ホテルエミオン京都周辺で12月に開催。子ども達など地域住民によって絵やメッセージが書かれた行灯を展示し、和ろうそくの幻想的な灯りでクリスマスの夜を彩るとともに、京都市立芸術大学生によるライブ演奏やクリスマス抽選会も実施。家族連れを中心に約600名が来場しにぎわいの創出に寄与した。



○FUTURE TRAIN KYOTO DINER & CAFE

京都駅西部エリアにおいて、官民の連携により、多彩な地域資源を活用した新たな賑わい創出の取組として、令和7年3月に京都市を含む11団体が「京都駅西部エリアにおける鉄道高架空間の活用によるエリア活性化のための連携協定」を締結。9月には、JR梅小路京都西駅の設置に伴い廃線となった梅小路短絡線の高架上（梅小路ハイライン）に、日本初となる高架常設店舗「FUTURE TRAIN」がグランドオープン。さらなるにぎわいの創出を目指す。



推進施策

○梅小路公園開園30周年

都心部に位置しながら豊かなみどりを満喫できる憩いの空間として、多くの方々に親しまれている梅小路公園。平安建都1200年記念事業として1995年に整備され、4月29日に開園30周年を迎えた。開園30周年を記念し、関連イベントなどの事業を実施。



○下京・京都駅前サマーフェスタ

(西本願寺、東本願寺、興正寺、京都駅ビル開発㈱、下京区役所)

まちの賑わいづくりを目的に7月31日～8月31日に開催。本願寺納涼盆踊りを皮切りに、盆踊りイベント(※)、西本願寺、東本願寺、興正寺の合同企画である下京サンテライブ(朝参り、シネマ上映会・非公開エリア特別公開)、興正寺フェス(※)などを開催した。
※ 下京ゆかりの団体等によるステージ出演あり



○特定非営利活動法人Knit-kの取組

お東さん広場で、出店者による書籍の販売等を11月に実施。本を介した多様なコミュニケーション及び賑わいを創出することにより、下京区の文化資源の再認識と地域活性化を目指す。



○楽南マルシェ事務局の取組

お東さん広場で、下京区や京都市内に事業所を有する事業者を集めた「食」「体験」ができる「楽南マルシェ」を11月に開催し約3500名が来場。事業者の魅力発信や、地域×観光×京都企業による、エリアの価値・魅力の向上を目指した。



○『崧』(yoroko[bi])実行委員会の取組

中央卸売市場第一市場周辺事業者を中心として、七条七本松周辺の新旧事業者が食を通してエリアの価値向上を図るマルシェを5月及び11月に開催。11月は市場サンクスフェスタとの共催により開催し、来場者2000名。市場周辺～西七条の賑わいを創出を目指した。



○unknowncinema.kyotobaseの取組

地域住民・食・文化が交差する映画祭を梅小路公園において実施する。地域店舗による飲食ブースの出店などを通して、区内で活動する人や店を知ってもらう機会を作り、地域全体の活性化を目指す。



④地域コミュニティの核となる持続可能な商店街づくり

○七条商店街振興組合の取組

「楽南マルシェ」に、自然との一体感を味わうアウトドア・アクティビティ「七条商店街ツリークライミング」で参画。魅力ある商店街・地域の賑わいを発信するとともに、参加された子どもたちに、自然を大切にする気持ちの大切さを伝えることを目指した。



○ナナメディアプロジェクトの取組

京都の大学生を中心に、梅小路西側の商店街の各店舗と連携し、商店街の真裏にある空き家「ナナメディア」を拠点にメディア制作及びワークショップを開催。子どもたちと一緒に空き家の空間をデザインする『七条空想プレイハウス』、商店街で働く人々の日常を体験できるプログラム『セブンライブ』などワークショップを開き、商店街の活性化に資するような、新たな仕組みの構築を目指す。



交流促進・まちづくりアイデア創出プロジェクト

オープンな交流促進を行う「交流会」

まちづくり活動を行う学生や事業者・地域団体等の連携促進等を目指した「交流会」を9月に実施。さらに、テーマを絞った「分野別交流会」を5回実施した。今年度の活動報告等を行う「報告会」を3月に実施予定。

交流会

「SHIMOGYO+GOOD」令和7年度採択団体や区内のまちづくり活動実施団体、金融機関など約35名が参加。各自の取組の紹介や課題を共有しつつ、知恵や経験をシェアするワークショップを実施。



分野別交流会

○みどりでつながる交流会

下京区内でみどりをテーマに異なる領域で活動をする方々がつながるきっかけになるような交流会を、令和6年度に引き続き開催。



6月の交流会には、7名が参加し、各自の活動紹介や課題などを共有。参加者から「それぞれの活動の場を見学してみたい」という提案を受け、10月には下京区社会福祉協議会が開催する「どろんこフェス」へのイベント参加型交流会を開催した。

分野別交流会

○あなたのやりたいを応援！お金のつくり方セミナー

講師による活動資金を集めるための知識や事例紹介などをもとに、事業者それぞれの目的にあった資金集めの方法について、検討・意見交換を実施。8名が参加。



○あなたのやりたいを応援！仲間のつくり方セミナー

活動を継続・拡大していく上で不可欠な「仲間や担い手」について、具体的な事例紹介を交えながら意見交換を実施。8名が参加。



○あなたのやりたいを応援！

まちづくりのための効果的な広報・発信セミナー

広報の基礎を知り、自身の活動に合った広報媒体の選定方法など、まちづくり活動に効果的な「広報・発信」について検討。参加者がチラシを持ち寄り意見交換を行った。5名が参加。



交流促進・まちづくりアイデア創出プロジェクト

伴走支援の実施

「SHIMOGYO+GOOD」採択団体だけでなく、令和5年度の「下京ローカルグッド」(※)参加者による、地域に根差した活動「祭りプロジェクト」への伴走支援を実施した。

(※) 区基本計画の推進を強化することを目的に、学生・若手社会人が、まちの人に出会い、まちの人の想いに触れて、課題解決に向けたアクションプランを企画・提案するもの。約20名が参加。

★祭りプロジェクトの概要

「地域のお祭りを入り口に、若者が地域に定着する仕組みづくり」を目指すもの。昨年度のヒアリング・リサーチを踏まえて、今年度は菊浜学区・醒泉学区の2学区で取組を実施した。

○菊浜学区での取組

8月31日「菊浜盆踊り」において、太鼓の叩き手を探している主催者側の依頼に対して、2名のボランティアを派遣した。事前の会議、練習会にも参加し、地元の皆さんとの交流を深めた。



その後、地元の皆さんと菊浜のまちを案内するツアーを企画し、参加したボランティア2名に対して12月13～14日、12月20～21日にツアーを実施した。家族・恋人と一緒に参加され、2組とも翌年の盆踊りに家族・恋人を連れて参加することを約束してくれた。



○醒泉学区での取組

9月14日「祭・ザ・seisen」において、下京青少年活動センターの若者ボランティア集団「よきDELI」のメンバーとともにブース出展を行った。事前の会議や交流会・打ち上げにも呼んでいただき、地元の皆さんと交流を深めた。



夏祭りの後も地域の催しにお声がけいただき、「よきDELI」のボランティアリーダーの2名が自ら9月28日「三世代交流イベント」・11月1日「減災カフェ」・1月25日「餅つき」にボランティアとして参加するなど、継続的な関わりを通じて地元の皆さんとの信頼関係を築いた。

そうした信頼の中で、地元の方が就職先となるような会社を紹介され、一緒に職場を訪問するなど、祭りをきっかけに若者の地元企業への就労につながる動きも進んでいる。



下京地域コミュニティHubについて

「新京都戦略」のリーディングプロジェクト「市役所・区役所の「つなぐ」機能強化プロジェクト」に基づき、区役所が人と人をつなぐ「結節点」としての役割を果たすことを目的に、「下京地域コミュニティHub」を立ち上げ。

組織間の垣根を越えて、地域の方々・NPO・福祉関係団体・企業・大学等、多様な主体のつながり、結びつき、交ざり合いの促進を目指す。

○未来のアーティストと子どもと地域でつくる楽しい食卓づくり (崇仁まちづくり推進委員会)

今後も持続可能な活動にしたいというニーズを把握したうえで、下京区内にあるタキイ種苗(株)とつないだ。今後、タネの提供等で連携予定。



○第2回 楽南マルシェ(楽南マルシェ事務局)

同友会と下京区役所が定期的に行っている意見交換会において「楽南マルシェ」を紹介したところ、同友会会員の出店ニーズがあったため、同友会と京都信用金庫七条支店をつないだ。同友会会員3企業が出店することとなった。マルシェ出店の機会がなかった事業者の活躍の場の創出につながった。



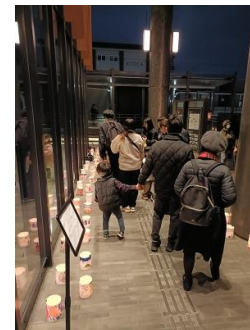
○まちなかでのスポーツを通じた子育て支援

8月30日開催時には、会場である龍谷大学付属平安高校の男子バスケットボール部の生徒も運営に協力。参加者と触れ合うことができた。さらに、3人制バスケットボールプロチーム「ZIGExN UPDATERS.EXE」の選手や、プロダブルダッチチームの選手とも交流。区内に所在する事業者・私立学校の間での、新たな連携が生まれた。



○「Umekoji Xmas Candle 2025」

昨年度まで開催されていた「伝燈祭」が今年度は休止となったが、「なんとか継続できれば」という意向を区内事業者がお持ちであることを把握。梅小路周辺の地域活性化に取り組む「梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会」に働きかけ、同会の主催で12月21日に開催。



○京都中小企業家同友会下京3支部の清掃活動

同友会として、新たな地域貢献を検討していたため、「清掃活動など身近なところから進めていけば良いのでは」と、区から助言したところ、同友会主体で区内で清掃活動を実施することとなった。

区役所は、清掃場所の選定や関係部署への取り次ぎ等、活動の定着に向けたコーディネートを実施した。



○下京区社会福祉協議会インクル(※)での「しおり」製作

※区社協が月1回開催する「だれでも参加できる居場所」のこと

区役所内で定期的に行っている「区Hub実務者会議」において、「本に関わるイベントを開催できないか検討中のため、意見・アドバイスが欲しい」と、区社協から相談。出席していた区若手職員が提案した「しおり製作」が、8月のインクルで実施された。地域で孤立している方と参加したお子さんとの交流も見られた。

